

より検査した所、18株(グラム陽性桿菌4株、グラム陰性桿菌14株)に拮抗作用を認めた。中でも新分離株1号(グラム陰性桿菌)及び同3号には著しい抗菌作用を認め、其の感受性をFleming氏法により調査し抗菌、スペクトラムを作製した所、前者は普通大腸菌の外各種赤痢菌(殊に大原、渡枝株)に對し、後者は枯草菌の外緑膿菌に對し抗菌性作用を示した。

要するに腔自浄作用はMengeの唱へる如く酸性度が重要な役割を演ずるものであり、此れには腔内諸種細菌殊に乳酸桿菌が關與するのであろうが、余の實驗の如く腔内容上清自身が諸種細菌に對し拮抗作用を有する事實、及び腔内に生存せるグラム陰性桿菌(菌種決定中)が或は「ペ」様、或はストレプトマイシン様、或はクロロマイセチン様抗菌性物質を生産してゐる事實より、此等作用が外部より侵入する病原菌始め、腔に生存せる病原菌に對し或は菌静止的に、或は菌殺菌的に作用して腔自浄作用の一助をなし得ると推論するものである。

3. 腔トリコモナス及び腔モニリア症の知見補遺

(東北大) 貴家 寛而、大川知之、
佐々木良一

(宮城県立愛宕病院) 長瀬秀雄、武田正美

1) 外來の非妊婦1875名、妊婦1296名及び業態婦130名に就いて、位相差顯微鏡により検索し腔「モ」の培養にはSabouraud培地を用ひた。帶下を主訴とするもの401名中頸管カタル及び腔部糜爛を有するもの38.6%あるが、上記一般婦人中腔「ト」は非妊婦に10.3%、妊婦に5.5%、芽生菌は檢鏡では非妊婦に7.2%、妊婦に23.0%だが培養では妊婦にCandida屬は3.4%その他の芽生菌15.8%、妊婦にCandida屬4.0%その他の芽生菌28.2%の高率に發見できた。之に對し業態婦は檢鏡で腔「ト」は55.1%、淋疾を有する業態婦では75.0%の高率に證明し、芽生菌は3.0%であつた。

2) 位相差顯微鏡を用うれば腔「ト」運動型は諸種細菌、芽生菌、異物等を喰食せる像並に蟲体、鞭毛、波動膜の運動を鮮明に認め得る。永久型は多くはロゼット様斑點を有し、形態鮮明で白血球と容易に識別し得る。腔「ト」による腔内容の檢鏡上の混濁は白血球増加、雜菌増殖、炎症性細胞出現多く清淨度の悪化を示す。芽生菌は2~4 μ 卵圓形又は球形にて稀に菌絲を伴ふことがあるが、腔内容は清淨度1~2度で良好であり大部分はデーデルライン氏桿菌を共存する。

3) 腔「ト」陽性者に卵胞ホルモン1回1萬單位隔日に連續35回注射したが清淨度の改善は認められても腔「ト」は消失しなかつた。10萬單位ペニシリン腔坐薬を腔「ト」患者に4回連用したが効果はなかつた。又腔「ト」陰性で清淨度不良のものに同坐薬を7回使用した後に腔「ト」多數を認めて驚いた。カルバギン、ペニギン、キノホルム等で腔「ト」が消失して清淨度改善されると芽生菌が10%にも出現した。又他疾患でペニシリン、ストレプトマイシンを投與すると腔内芽生菌が出現し易くなることを知つた。

4) 腔「ト」に對する各種薬劑の作用機序を位相差顯微鏡下で追求すると、蒸溜水では全てが瞬時に2~3倍に膨化するが死滅せぬ、一部は破裂する。50%葡萄糖高張溶液では總て縮小死滅する。10%カルバギン、カルバミジン溶液では變形せずに數分以内に死滅するが前者はより速効的である。キノホルム、抗微生物質Flavacid(東北大、黒尾教授)では夫々膨化時には破裂して死滅するのを認め特にFlavacidの膨化作用は著しい。ペニシリン、オーレオマイシン、クロロマイセチン、チピオン單獨では殆んど作用はない。然しMethylparaben, propylparabenを含むオーレオマイシンでは膨化死滅作用がある。Flavacidは腔「モ」の特効薬たるゲンチアナビオレットの100倍の抗菌力を有する事を知つたが同時に腔「ト」に對しても著効あるので其の利用價值は大に期待できる。

5) 要するに a) 腔「ト」は清淨度不良な非妊婦に腔「モ」は清淨度の良い妊婦に多く發見する。猶業態婦では更に高率である。b) 抗生物質療法は腔「ト」及び腔「モ」に無効であるが、特に腔「モ」に對しては却つて有害である。c) 抗微生物質Flavacidは腔「ト」及び腔「モ」に對して有効であり而も、腔「ト」治療後の芽生菌發現を豫防し得る。

4. 腔トリコモナスの培養的研究

(信大) 石井次男、林 公健

從來、腔トリコモナスの培養には共存細菌の發育を或る程度抑制する必要があるため、Davis & Hirschfeld培地、或いは千葉・田邊培地等が好んで用いられ、血清ブドウ糖ブイヨンや血清肝々ブイヨンは共存細菌の旺盛な發育増殖により腔トリコモナスの培養には不適であつた。

而して、腔トリコモナスの純培養を得ることは困難とされていたが、抗生物質の出現により、ペニシリン及び